

明治三十一年

(二月)

一月一日 甲子 土曜 陰、雨、暫時にして晴。殊ニ暖。
朝六時起。八時食堂ニテ相変らす椒酒、雑煮を祝ふ。生徒一同を引拉して、氷川神社ニ参詣す。帰途中、雨ニ逢テ帰。本年ハ御大喪中ニ付、賀客等もなく実に寂寥也。只出入之人等、祝詞を伸ニ来ル。

一月二日 乙丑 日曜 晴、暖三月の如し。

朝六時起。雑煮を祝ふ事昨日に同し。正子始て石山家ニ行て帰。

一月三日 丙寅 月曜

朝六時起。

一月四日 丁卯 火曜

朝七時起。午下三時より新年会を催す。来客、岡崎忠子、石山晨子、重威夫婦、其外山片菊、仁科駒、若林、千吉也。此会也、只岡崎、石山氏新族之厚誼を(以下、記述ナシ)。

*新族(親族)

一月五日 戊辰 水曜 入寒 晴。

朝七時起。愛治郎、正子、栄、鶴、桃子、節子と川上座ニ行。泰児、石神井村より来ル。

一月六日 己巳 木曜 陰、雪ちら／＼として晴。さむし。

朝七時起。白山神社ニ参詣して帰。鷺田、大塚、五軒町と鎌倉ニ参詣す。

一月七日 庚午 金曜 晴。寒し。

朝八時起。七草御祝粥を喫す。寄宿生帰塾す。母堂之忌日也。

一月八日 辛未 土曜 晴。

朝五時起。授業始をなす。入門、岩橋浪江、同三千世。弘児田舎ニ帰ル。夜、水道橋辺散歩す。月如鏡。

受方摘要 岩佐亀子、二円。

一月九日 壬申 日曜 晴、夜月清し。

朝七時起。午前、五軒町を訪テ帰ル。来客、落合氏、菊池氏、門野玉子、青木幾江、片平たか、田中源太郎。帰塾する者三十五人也。
受方摘要 中江満子、三円。

一月十日 癸酉 月曜 晴、霜雪の如し。
朝六時起。白山神社に参詣して帰。課業例の如し。
受方摘要 江副両人、十円。

一月十一日 甲戌 火曜 折々薄雪ちらつき、御例なるかな。
朝六時起。白山神社ニ参詣す。皇太后宮の雲かくれまし、日にて、天を拝したり。来客、石山すま子。

一月十二日 乙亥 水曜 陰。
朝六時起。白山ニ参詣す。課業例の如し。来客、塩原豊子。
受方摘要 塩原夏、三円。松島氏、三円。

一月十三日 丙子 木曜
朝六時起。白山ニ参詣して帰。課業例の如し。内藤艶子。

(二月十四日、十六日、記載ナシ)

一月十七日 庚辰 月曜
払方摘要 津田や、黄八丈二丈、三円六十銭。更紗縮緬一丈四尺、四円也。

一月十八日 辛巳 火曜
受方摘要 斎藤三人より七円五十銭。牛込幸子、二円。上杉重子、一円。田村盛子、千疋。

(二月十九日、廿一日、記載ナシ)

一月廿二日 乙酉 土曜 晴。
千久子一周年祭ニ付、休業す。午下祭典、祭主重威これを行ふ。別段客を不招、不断出入之人々のみ。生徒一同を拉して墓参す。

(二月廿三日、廿九日、記載ナシ)

一月三十日 癸巳 日曜

来客、中村千鶴及敬子。

受方摘要 中村敬より十五円。

一月三十一日 甲午 月曜

受方摘要 内藤艶子、十五円。

一月会計

払方摘要 八日、**めいせん**一反、三円余。

***めいせん**(銘仙)

(二月)

(二月一日〜九日、記載ナシ)

二月十日 甲辰 木曜

朝より雪降り出して、夕景尤密雪。庭園の風色極テ妙。屋上五寸位也。

二月十一日 乙巳 金曜

朝起て、四方之雪景、得も言はれぬほど也。此日を以、御所ニハ御大喪全く御解遊はされぬといふ。入塾、池田愛子。

(二月十二日〜十五日、記載ナシ)

二月十六日 庚戌 水曜 晴。

入塾、藤山枝子。同、田中島子。

二月十七日 辛亥 木曜 晴。

来客、井上市兵衛、一泊す。寄書、杉浦氏、白崎吉蔵え画を贈ル。帰塾、江副米子。山科大宮薨去ニ付、当日より三日間御停止。

井上氏、おたふく豆一箱。江副氏、**きすけ煮**三罐。

*山科大宮(山階大宮) ***きすけ煮**(儀助煮)

二月十八日 壬子 金曜 曇。

来客、安田暉子。井上市兵衛、午下帰港ス。寄書、志賀鉄千代。書至、木下翠雨、統地一枚願来。

江口御太郎より、鶴の子もち一箱、鶏卵一箱。安田氏、あたみの雁皮紙書翰箋二束、封筒、外二書翰箋。(氏名欠)、りん子一籠。

*鶴の子もち(鶴の子餅) *あたみ(熱海) *りん子(林檎)

二月十九日 癸丑 土曜 晴。

課業畢りて、午下、余、李子、節子を供ひて、一時四十分汽車にて大森、蒲田の梅見せむとて行たれと、愛治郎横浜へ用事有て行を汽車にて逢、皆々思ふ様、横浜に行を促かす。遂二原氏二行、山王山に行。煎抹の茶会にて、茗会ハ済にて、次の席にて会席饗せらる。畢て濃茶を喫す。夜に入て三の谷に行、一宿す。夜大風。

*供ひ(伴ひ)

二月二十日 甲寅 日曜 陰。

朝起。風やまず。雪ちら／＼ふる。寒気きのふに替て、寒さいはん方なし。船も来りたれと、杉田の看梅ハ後れと相成、御昼、重組なそひらきて、それより又山王別荘二行、煎茶を喫し、夕飯会席にて飲を尽して、七時の汽車にて行。寒尤厳し。

受方摘要 内田兼子、一円。

*きのふ(昨日) *いはん方なし(言わん方なし) *ひらきて(開きて)

二月廿一日 乙卯 月曜 夜、雨、及雪。

課業例の如し。来客、佐野常民使田谷隆一郎、阿部弘妻、毛利万子。入学、桑邱増子。小包着、堀部鶴子。

二月廿二日 丙辰 火曜

課業例の通し。昨夜の雪にて真白の世界、のみならず風雨も添て天大あれなり。おそろしき迄也。来客、山本安治郎母。

*通し(如し)

二月廿三日 丁巳 水曜 晴。

朝起て、墓参して帰。課業例の如し。

万里小路より八重子遺物、焼物火鉢一对箱入、白七子、白亀あや。

*白亀あや(白亀綾)

二月廿四日 戊午 木曜 晴。

朝起て、散歩して帰。課業例の如し。来客、原安子、門野玉子、守川妻。書至、米国石山基威。

原安子より白縮緬一反。

二月廿五日 己未 金曜 晴。
午下、始めて戸田氏に教授して帰ル。来客、日本赤十字社田谷隆一郎、桐島銚子。五軒町を訪ひて夜八時帰。

二月廿六日 庚申 土曜 晴、風。

山科宮晃親王殿下御葬送二付、休業。余も御なじみの御方にて、実御いたましき御事と存上る。朝より生徒四人を連れて、御殿町あたり梅をさくりにて、遂に植物園に散歩して帰。来客、菊地。

*山科宮晃親王殿下（山階宮晃親王殿下） *さくりにて（探り）

二月廿七日 辛酉 日曜 晴。

午下、五軒町に観梅を催され、余、正子、桃子、節子行。夜八時頃帰。此日、鷺田菊枝父病氣危篤、続而親父死去、電報アリ。

二月廿八日 壬戌 月曜 晴。三十九度。

来客、木村徳子及其保証人、徳子一宿す。退校御礼ニ来ル也。書至、久岡あさ。来客、重たけ。朝、菊枝国元え出立す。

木村氏より白縮緬一反、外ニ反物。大橋より日本女子諸礼式蒔絵箱入。
*重たけ（重威）

（二月会計、記載ナシ）

（三月）

三月一日 癸亥 火曜 晴、風。始而六十度。

今朝、木村徳子帰。大塚陽子、病氣はか／＼しからずとて暇願ニ来ル。

三月二日 甲子 水曜 陰。四十一度。

入塾、小山増子。午下、五軒町を訪て帰。

三月三日 乙丑 木曜 晴。

課業例の如し。三時頃より五軒町ヲ訪ふ。日暮而帰宅。雛祭にて塾生一、二、三、十、十一号を呼ぶ。若林、千吉の長うた、落語も有て、いとおもしろく、八時半済。
払方摘要 五軒町初穂三ヶ月分、四円五十銭。

*長うた(長唄)

三月四日 丙寅 金曜 陰、午下雪。三十五度、珍らし。
入門、床次千代。

三月五日 丁卯 土曜 晴。
課業畢而、午下五軒町を訪而帰。

三月六日 戊辰 日曜 晴。
朝起。午下早々、余、栄子、幾恵、芳子を拉して、田畑田村氏之別荘二行。梅未一分通りも不開、中に盛りの分二、三株有のみ也。休憩して帰。此行道に迷ひて、帰路五時頃也。
来客、宮原六之助、岩太、五軒町。

*田畑(田端)

三月七日 己巳 月曜 晴。
余、昨夜ヨリ腹痛にて臥、休業す。
弘方摘要 丸孝、三円。

三月八日 庚午 火曜 晴、大暴風。
習書試験二かゝる。来客、重たけ、すま子、田谷氏、荻のとせ子、入沢群子。寄書、三条篤子、樹下定江。

*重たけ(重威) *荻のとせ子(荻野とせ子)

三月九日 辛未 水曜 晴、風。
昨夜より雪ふり出し、寒気も一入厳敷候。書至、徳川富子、藤袴内侍様。十日の事也。
午下、五軒町を訪而帰。

三月十日 壬申 木曜 朝雪にて陰。
課業例の如し。この夕、鷺田菊江国元より帰り来ル。

三月十一日 癸酉 金曜 晴。
課業済て、午下早々戸田氏に教授して田村氏を問ひ、五軒町を訪て、晡時帰。重の娘筆を抱る。下僕留抱る。
井深氏より、つなき糸織一反。

三月十二日 甲戌 土曜 晴。

朝より試験之書、揮毫させる。書至、閑院宮様、九条恵子。さて宮原氏久々の帰京故、旧を話し新を語り、旧友を暖めんとこの事にて、原氏夫婦、宮原、岩太、重たけなど誘引して、隅田堤のかれ野など逍遙せんのだ催しにて、先船を申付、重組なそも用意いたし候。

*旧友(旧交) *暖め(温め) *重たけ(重威) *かれ野(枯野)

三月十三日 乙亥 日曜 雪、雨。

昨夜より朝にかけて、雪積事五、六寸、今日の船行ハとても催し難く、朝九時には宮原氏来、原氏、上芝も断り来り、重威ハ雪を冒して来ル。重組などハ調製して万々準備も出来たれば、宅にて雪見の宴を催し、夜八時過皆帰る。帰塾、高野氏。

三月十四日 丙子 月曜 晴。

かなの試験始める。寄書、閑院宮、九条家、毛利家、蒲生氏。

*かな(仮名)

(三月十五日〜十七日、記載ナシ)

三月十八日 庚辰 金曜 終日雨。

朝起。画の試験ニかゝる。来客、山かた孝子。

*山かた孝子(山県孝子)

三月十九日 辛巳 土曜 陰、夜大雨。

朝起。課業例の如し。午下、五軒町を訪て帰。此夜十一時頃、田村氏より使来、増子夜八時死去のよし申来ル。来客、玉枝、佐野隠居。佐野御隠居より白縮緬一反。

三月二十日 壬午 日曜 雨。

朝起。雨中田村氏二行、増子死去之弔詞を伸へて、惨然之至り涙之外なく、暫時にして帰。桃子、此夜通夜二行。山県孝子、此度の結婚ニ付、その祝として松魚一折、友仙縮緬一反。

*友仙縮緬(友禅縮緬)

三月廿一日 癸未 月曜 朝晴、十時頃より陰、風有。三十九度。

朝起。課業例の如し。来客、横浜渡辺福三郎、娘安子、入塾願ニ来ル。来客、中井敬所。重野成斎古稀ニ付、文集三冊贈らる。此夜、節子、田村氏え夜とぎに遣す。書至、三条家。訃音、御寺御所豊岡東雲本月八日死去。

三月廿二日 甲申 火曜 陰。四十度。

朝あられふる。殊に寒し。墓参して帰る。課業例の如し。此日より針治にかゝる。武田氏来ル。

*あられ(霰)

三月廿三日 乙酉 水曜 陰、四時頃より雨。三十九度。
試験畢而画の卒業生のみ残ル。田村氏葬式にて愛治郎会葬す。来客、武田氏。

三月廿四日 丙戌 木曜 晴。三十八度、寒甚。
塾生帰宅する。来客、武田氏。

三月廿五日 丁亥 金曜 朝少々雨降出て、已而晴朗。春来第一の天気也。
朝より千賀子、米子、岳子、絹地揮毫す。来客、原安子、守川妻、丹羽花子、稲垣銑、山県幸、武田氏。

原氏より白縮めん一反。

*白縮めん(白縮緬)

三月廿六日 戊子 土曜 陰。
朝より運動して終日遊ぶ。来客、武田氏。

(三月廿七日、記載ナシ)

三月廿八日 庚寅 月曜
来客、武田氏、一周間済、是よりかく日にたのみ候。
*一周間(一週間) *かく日(隔日)

(三月廿九日、記載ナシ)

三月三十日 壬辰 水曜 朝少し雨。
朝、近方散歩して帰。来客、武田氏。

*近方(近傍)

三月三十一日 癸巳 木曜
朝起。卒業証書揮毫す。畢而午下、五軒町を訪て帰。

(三月会計、記載ナシ)

(四月)

四月一日 甲午 金曜 雨しきりなり。午前より雨晴如拭。
朝起。掃除ニかゝる。来客、宮本小一、其孫土喜子入学願出ル。

四月二日 乙未 土曜 晴又陰。花始一りん開。

朝起。墓参して帰。午下早々田村氏之行、暫時にして帰。来客、武田氏、斎藤仁子夕景来、
久々に夜九時帰。講堂及食堂、其外飾付万事出来する。高橋、郷里より帰ル。

四月三日 丙申 日曜 四十度。朝六時、地震長し。

朝起。空曇、八時より雨降出して終日しきり也。午下一時頃より生徒等続々来。午下二時
より式場にて卒業証書授与式ヲ行ふ。先、余祝文を朗読して、次ニ斎藤千賀子和文答辞を
読む。三時畢。余興、仁科駒舞、長唄若林、芳村扇吉三味線にて、食事之間を興す。五時全畢。

山形菊、仁科、一宿。入塾、平川慶子。
卒業生

全科、松平岳子。三科、斎藤千賀。三科、江副米子。三、伊藤定子。

国学、山田節子。同、酒卷千せ。同、三村松。同、中浜糸。

同、池田愛。同、斯波滋。同、戸田銈。同、松平鱗。

漢学、永野辰。裁縫、金井峰。同、小泉為。同、森山鉄。

習字、遠田澄。

十七人。

特優等生、十人。優等生、六十人。

四月四日 丁酉 月曜 晴天。四十度。

朝より前日之かた付物して。来客、武田氏。入塾、内藤代志子。

四月五日 戊戌 火曜 朝、(コノ文、以下記載ナシ) 四十七度。

朝より雨にて。入門、宮本土喜子。午下、雨中五軒町を訪て、五時帰。

払方摘要 柳太郎えコヲト直し、五十銭。

*コヲト(コート)

四月六日 己亥 水曜 朝陰、午時より雨、三時頃より雨晴。

課業始をなす。入塾、赤木千賀、渡辺康子。入門、松田みの子、橘喜代子、森林子、榎本
泰、渡辺露、種田竹。来客、浪花天下茶や田中三五郎、姪寺田善左衛門、桜井得兵衛、一
宿。

渡辺氏より白紋羽二重箱入。寺田氏より白毛綿三疋。

受方摘要 渡辺康、五円。三条家、千疋。塩原夏、二円。

*天下茶や(天下茶屋)

四月七日 庚子 木曜 天晴朗。

朝五時起。大坂客六時汽車にて日光見物二行。余、氷川田甫逍遙して帰。課業例の如し。入門、南八重子。午下より五軒町を訪て帰。

受方摘要 三村松子、酒巻千世、斯波滋子、山内節子、十二円。

四月八日 辛丑 金曜 晴。

課業例の如し。

四月九日 壬寅 土曜 朝晴、午下雨。豪雨夜通し降しきる。皆々明日之祝賀準備中、懸念する。

朝起。課業例の如し。天下茶屋客人日光より帰り来る。午下浅草見物二行。余、午下五軒町を問て帰。桃子同道也。

受方摘要 上野とせ、三円。新井好子、三円。

四月十日 癸卯 日曜 朝陰々已而天晴朗。七十度。東台桜花半開也。

奠都三十年祝賀会ハ、愈予定の如く此十日を以テ挙行せられたり。両陛下臨御、市民歓呼、洵に絶代の盛事を極む。二重橋外に便殿を設け、それに入らせ給ふ。御式畢て、市民列を正して、大名行列、奥女中行列、其外様々の趣向にて花車、市中提灯に旗を軒毎ニ謁く。余、節子、国子を連て上野二行。閑道のみよりによりて行けども、人の群集にて、漸々の事にて権現のせつたい茶屋迄に至りぬ。とても本道には行もやられずして、また閑道に帰りぬ。昼十二時也。入塾、長谷川幸子。

長谷川幸子より白統一反。

*謁く(掲く) *みより(み選り) *より(選り) *せつたい茶屋(接待茶屋)

四月十一日 甲辰 月曜 朝より陰々として、午後晴渡る。奠都三十年祝賀会ニ付休業。

朝起。天下茶屋之客三人今朝八時過出立す。鎌倉、江之島見物して江之島泊り也。入塾、犬養氏之女。来客、山根文子。愛治郎、栄、鶴連て、隅田川ボウト会二行、四時過帰。余、重威之病を訪ふ。江戸川の桜、半開ながら実ニ見事也。日暮帰。

四月十二日 乙巳 火曜 晴天。

朝起。課業例の如し。入門、矢野麟子、山崎芳子、吉見辰子、田中三常、福島紋子。来客、竹山屯夫婦及其娘、入沢郡。

*入沢郡（入沢群）

四月十三日 丙午 水曜 晴朗。

朝五時より、余、桃子、節、国子と同しく、車をはせて向島二行、桜花を観る。未だ半開也。朝露を帯て朝日に匂ふ所、得も言はれぬ景色。所々散歩して、夫より上野に至りぬ。東台の花ハ真盛りにて、茶店に憩ひて花を賞してやます。八時過帰る。来客、岩浪稲子、齋藤千賀子、小池氏、菊池氏、井上久可子。井深氏ニ約あり、余、桃子、節子、愛治郎、五軒町、夕景より観花の宴催されて、井深氏の楼中より我庭の爛熳たるを観る、実ニよし。九時頃帰る。夜来客、原田輝子。
受方摘要 齋藤千賀子、三十円。

四月十四日 丁未 木曜 晴。

課業例の如し。午下より佐野の御隠居を問ふ。不在にて不逢。閑院宮様、久々にて伺ひ、御息所、姫宮様方の御供して山王の桜花を見る。還御に相成候て、宮様にも拝謁仰付られる。此御殿よりの見渡し、実に嵐山も及はぬ、松杉の間よりしら雲のわき出るやうなる、絵にも言葉にも及はぬさま、賞款不止。はた御庭の御模様のかはりたるなど拝見して、六時頃帰る。来客、安田輝子。入塾、吉川鉄子。通学、有吉文子、全静、三淵きく、菅谷せき、鎌田愛、磯の義子。

受方摘要 遠田済子、五円。

*しら雲（白雲） *賞款（賞翫） *磯の義子（磯野義子）

四月十五日 戊申 金曜 晴。夜八時頃一しきり雨にて止。

朝五時より江戸川之花を見る。五軒町を訪ひ、暫時足やすめして、墓参して帰。来客、小池悠作、中尾教審。入塾、鈴木不二千代。通学、内山むろ。桃子、節子、愛治郎、閑院宮に詣す。書至、桜井徳兵衛。来客、午下五時頃より齋藤仁子、千賀子、旧を話して九時帰。
受方摘要 松平岳子、廿円。伊藤定子、七円。金井峰子、三円。小泉国子、三円。

四月十六日 己酉 土曜 晴。

朝五時起。★（立十青）国神社の桜花を見て帰。

四月十七日 庚戌 日曜 晴。

朝、そら晴れわたりて、十一時四十分の汽車にて横浜原氏へ行。余、逆上つよくて、直ニ床をのへて脳をひやし、終日養生して一宿す。愛治郎一番汽車にて沼津二行。

*のへて（延べて）

四月十八日 辛亥 月曜 晴。

朝八時の汽車にて守川安と帰宅する。直に臥。入門、石川照子、中島俊、大築やつ、滝沢浜子、竹山悦。

四月十九日 壬子 火曜
余、脳病にて臥。入門、宮崎糸子。

四月二十日 癸丑 水曜
余、脳病にて臥。

受方摘要 三条家より五円。

四月廿一日 甲寅 木曜
余、脳病にて臥。

(四月廿二日、廿四日、記載ナシ)

四月廿五日 戊午 月曜
入塾、大島吉野。

(四月廿六日、廿七日、記載ナシ)

四月廿八日 辛酉 木曜 雨。

来客、佐野隠居、御礼ニ来ル。横浜原氏之祭礼ニ付、招かれて、愛治郎、栄、鶴、桃子行。雨にて一宿。愛治郎、北村のみ夜帰。佐野隠居より、毛織もの一箱。

四月廿九日 壬戌 金曜 晴。

入塾、中村茂子。桃子一同、青木幾恵も同道にて帰。

払方摘要 三井えふし糸織一反、六円六十五銭。色めりんす一反、壹円八十九銭。帛紗めりんす一反、貳円十七銭。

*ふし糸織(節糸織) *色めりんす(色メリンス) *帛紗めりんす(帛紗メリンス)

四月三十日 癸亥 土曜 雨。

来客、華族遠山常子、入塾願出ル。午下、五軒町を訪ひ、山形菊と同道にて帰。菊女一宿す。

払方摘要 丸幸子え袋仕立代、糸代共、壹円六十五銭。外三二円四十五銭。

(四月会計、記載ナシ)

(五月)

五月一日 甲子 日曜 晴。
入塾、大友瑪口、鎌田愛子。

五月二日 乙丑 月曜 終日大雨。
入門、一条定子。大坂難波桜井徳兵衛ヨリ奈良漬一樽、そらまめ、昆布着。

五月三日 丙寅 火曜 終日雨。
朝起。課業例の如し。入門、岸田清江、鎌田元子。来客、重威、横浜守川安。

五月四日 丁卯 水曜 晴、夜月清し。
朝起。課業例の如し。入塾、塩原松子。閑院宮え当年始而御稽古上ル。畢而去、五軒町ヲ訪而帰。

田村増子遺物、紋御召一反。
受方摘要 塩原氏、二円。

五月五日 戊辰 木曜 晴。七十五度。
朝起。近方散歩して帰。入門、椎名氏かほる。来客、浅田幸子その子延子を連れて来ル、[間愛子](#)。

辰馬愛子より紋羽二重一反。
払方摘要 単物地伊勢ニ弍円八十銭。
*近方(近傍) *辰間愛子(辰馬愛子)

(五月六日、記載ナシ)

五月七日 庚午 土曜 晴。
琴温習会を行ふ。朝九時より点灯迄に至る。実に見事によく弾し、終日の楽しみ也。来客随分有て、面白き事也。入塾、酒井栄子、寺田林子。
十一号塾より[紋二羽重](#)一反、緋塩瀬帯地、紫帛紗地にて、官女の人形に[ひざ元](#)に遠山台に若松を置たる、実に見事也。

*紋二羽重(紋羽二重) *ひざ元(膝元)

五月八日 辛未 日曜

誕辰日二付、朝四時頃より仕事し、大せいにて手躍舞台、神楽舞台、茶店を立ル。塾一、二、三号合して一店、四、五、六合して一店、十一、十二合して、七、八、九合して一店、通学生之分一店、喫煙所、六軒之茶店、**茶や女**の前掛一組に揃、たすきも緋、**或とき**、黄などにて、十二時頃より売出したり。食物ハ山の如く、人又山の如く、先々三百人の来客也。其盛なる、これ迄になき有さま也。**大既**客も揃ひたる頃より雨降出して、俄に講堂に茶店を設け、躍舞台をも**こしらへ**、二階にてたのしみ、四時頃雨止て、一同写真をとらせ、日暮、滞りなく誕辰の祝ひ相済候。余興に空船を上ル。原安子、**門の玉子**、一宿。原安子より**呂織帯地**。毛利万子、縮二反。玉川氏より、ゆかた地二反。祝ひの贈り物又山のごとし。

*茶や女(茶屋女) *とき(鵝) *大既(大概) *こしらへ(拵へ) *門の玉子(門野玉子) *呂織帯地(紹織帯地)

五月九日 壬申 月曜 晴雨不定。

愛治郎、桃子、節子、原安子、玉子、菊江を誘ひて川上座に至り、七時帰。晚餐済せて帰す。

五月十日 癸酉 火曜 晴雨不定。

課業一回にして臥。痔疾起ル。

弘方摘要 予而詵置たる**クワ之单子**出来、代金三十三円也。

*クワ(桑) *单子(箆筒)

五月十一日 甲戌 水曜 朝細雨、已而止、晴。

課業例の如し。書至、斎藤仁子、岩倉八千子、戸田米子、原安子。入門、美見ぬい子、伊藤千賀子。

五月十二日 乙亥 木曜 晴。

課業例の如し。来客、左右田金作の細君及娘入塾願出ル、**重たけ**。書至、門野たま。入塾、森山鉄子。

*重たけ(重威)

五月十三日 丙子 金曜 晴。

課業例の如し。朝五時、**重たけ**来ル。此度、新築の地祭執行する。訃音、宮原老母本月十一日午後三時死去。

*重たけ(重威)

五月十四日 丁丑 土曜 陰、午下雨、已而止。
課業例の如し。午下、愛治郎、桃子、節子を連て横浜原氏二行、一宿。京都宮原え悔状及香奠五円を贈ル。近万え托す。

五月十五日 戊寅 日曜 晴。

朝、山形菊来。昨夜五軒町賊来。此度ハよき物のみ取去、そのあたひ凡千円余のもの也。直二見舞二行。実二気の毒言はん方なし。愛治郎の一行ハ夜十一時帰宅ス。

*あたひ(値)

五月十六日 己卯 月曜 晴。

課業例の如し。入門、高田みき、鍵田濟子。来客、大村梅子、小早川式子。

小早川式子より白縮緬一反。大村梅子より、ちゝみ一反。

*ちゝみ(縮)

五月十七日 庚辰 火曜 晴。寒。

課業例の如し。入塾、横浜左右田静子。来客、左右田鳥子。

受方摘要 左右田氏より十円呉服券。

五月十八日 辛巳 水曜 雨。

課業例の如し。入塾、横川氏、田中光子。

受方摘要 横川氏より二円。

五月十九日 壬午 木曜 晴。

課業例の如し。喜賓会紹介にて、教育篤志者英人フレデリック・エルダー氏及妻、通弁矢島健治之四人にて、学校拝観ニ来ル。茶の稽古を見。四畳半の茶席にて、炭手前ヨリ三人の立前も見。客ぶりもよく出来て感心也。一時帰。余、二時より閑院宮様え御教授申上て、五軒町寄て帰。

大坂桜井より奈良漬二樽、味噌漬一樽着。

*喜賓会(貴賓会)

五月二十日 癸未 金曜 晴。

課業例の如し。来客、山形市高等女学校設立ニ付、その役員參觀ニ来ル。書至、姉小路伯、本月十八日須磨病院退院して京都ニ出發せらる。

五月廿一日 甲申 土曜 朝雨、午下晴。

課業例の如し。午下、余、田村氏を訪て五軒町二行。姉小路寄相中将様御正当ニ付、家内

一同参拝す。夕飯を喫して帰。新築の地つき日なから、雨にて出来ず。
弘方摘要 五軒町え御初穂、金三円。

*姉小路寄相中将様(姉小路宰相中将様) *地つき日(地突日)

五月廿二日 乙酉 日曜 晴朗。

終日揮毫する。新築地つきをなす。寄書、穂積哥子え。

受方摘要 斎藤善子、宮子、五円。

*地つき(地突)

五月廿三日 丙戌 月曜 晴。

課業例の如し。

五月廿四日 丁亥 火曜 朝より陰、午下雨。

朝起。生徒連て氷川神社ニ詣て帰。課業例の如し。来客、英人フレデリック・エルダー氏此間の御礼ニ来ル。画の教授を見て帰、内山松世氏。余、午下御所ニ参る仕度致したれと、雨にて止る。

五月廿五日 戊子 水曜 天晴朗。

課業例の如し。新築棟上する。余、午下、閑院宮様え御教授申上て帰ル。来客、藤堂俊子、島田信子、小池氏。

*教授(教授)

五月廿六日 己丑 木曜 晴。

課業例の如し。書を寄す、安斎清衛、尾越留子。

五月廿七日 庚寅 金曜 晴。

朝起。生徒をつれて白山ニ詣て帰る。戸田氏ニ教授して帰。来客、左右田氏。退塾、大和多可子。

五月廿八日 辛卯 土曜 晴。

地久節ニ付、休業す。午下早々五軒町ニ行。仕舞の会ニ付、我も舞ひ人も舞ひて、半日楽しむて、夕景帰ル。来客、小池氏。

五月廿九日 壬辰 日曜 晴。八十度。

朝八時より生徒を連て中黒ニ行て、撮影して帰。

五月三十日 癸巳 月曜 雨。

課業例の如し。来客、宮原六之介母の遺物哥かるた箱入及短冊入とを贈らる、江副米子卒業御礼としてその母と同道し来る、遠田済子此度赤松氏ニ嫁する約齋ひ、御暇乞ニ来ル。

江副米子より白縮緬一疋。其外御召縮緬、白縮緬二反。

受方摘要 江副氏より廿五円。

*哥かるた(哥カルタ)

五月三十一日 甲午 火曜 晴。

課業例の如し。退校、金井峰子。書をよす、原安子、浦四三子。

払方摘要 丸幸え袖入仕立代、壹円五十銭。

(五月会計、記載ナシ)

(六月)

六月一日 乙未 水曜 晴。

朝起。生徒つれて墓参して帰ル。課業例の如し。入門、近藤八重子、貴子、近藤廉平妻、平尾光子。

田村盛子より、車の前懸、外ニ小供えゆかた六反。

六月二日 丙申 木曜 晴。

朝起。課業例の如し。午下二時より五軒町重孝五年祭ニ付、参詣す。夕飯を饗応せられる。済て帰る。書を寄す、石井初子。

六月三日 丁酉 金曜 細雨。寒し。

朝起。課業例の如し。入門、白井元子。午下草々戸田氏に教授して帰ル。書至、与謝野鉄幹。

*草々(早々)

六月四日 戊戌 土曜 午下雨、夜又甚し。

朝起。生徒をつれて白山に参詣して帰。来客、横浜より守川来ル。愛治郎、栄子、節子、原氏ニ行。来客、中世福。池田禄子小兒八重女を連れて来ル、仁科駒女来、一宿。

六月五日 己亥 日曜 雨終日切也。風又甚。

朝起。揮毫する。此日ハ、三井倶楽部ニ能見物のはつの処、大雨終日にて止る。来客、仁

科駒帰ル、悴文蔵来。愛治郎、横浜より帰。訃音、桜井能監昨日死去。

*切(しきり) *はつ(筈)

六月六日 庚子 月曜 晴。

朝起。一昨日よりの豪雨にて、表裏共出水、運動場迄に及ぶ。午下より、つゞみの会にて、

星岡茶療ニ赴く。大谷光尊法主、黒田、九条恵子様、中川、岩倉梭子、其外婦人にて、夜

八時帰。帰路夕立にあひ、暫時にして止。

来客、長尾数子、あかし一反を贈る。同、塩原豊子、すきや一反を贈る。桜井能監え金千

疋香料。七日の分。

*星岡茶療(星岡茶寮) *あかし(明石) *すきや(透綾)

六月七日 辛丑 火曜 晴。

朝起。揮毫する。来客、小池氏、重たけ。

*重たけ(重威)

六月八日 壬寅 水曜 晴。

朝起。揮毫する。午下より閑院宮様え御教授申上て、帰途五軒町ニ寄て帰。書至、徳川氏、滝川氏、皆水見舞也。

六月九日 癸卯 木曜 晴。

朝起。生徒たちつれて氷川わたり逍遙して帰。書をよす、徳川氏、滝川氏。

六月十日 甲辰 金曜 晴。

朝起。生徒連て散歩して帰る。午下、戸田氏ニ教授して、それより田村氏を問て帰ル。

六月十一日 乙巳 土曜 陰、細雨。

入梅。課業例の如し。午下早々、桃子、鶴子、幾重、横浜三の溪二行、一泊す。入塾、伊藤けい、元吉文子。佐久間氏、伊藤氏、元吉氏。

六月十二日 丙午 日曜 晴。

朝起。有約、余、栄子と同しく、朝九時より紅葉館能楽二行。田村氏先ニ至る。終日面白く、久々にて楽しみにたえず。雷電を一番残して帰。夜、桃子の一行帰る。

六月十三日 丁未 月曜 陰、又細雨。

課業例の如し。来客、井上市兵衛、重威。入塾、有吉静子、同文子。節子、横浜三の谷ニ行。来客、有吉妻。

六月十四日 戊申 火曜 陰、又細雨。
課業例の如し。来客、山本久子、左右田母。入塾、戸帳緑子。

六月十五日 己酉 水曜 陰。

朝起。生徒連て墓参して帰る。課業例の如し。午下、閑院様え参り、御教授申上て帰る。
来客、北白川様の稲子。入塾、手島ぎん子。書至、斎藤仁子。

六月十六日 庚戌 木曜 晴。

朝起。生徒つれて散歩して帰ル。課業例の如し。来客、橋本吉兵衛。池の浚をなす。

六月十七日 辛亥 金曜

朝起。課業例の如し。午下、戸田氏ニ教授して帰。

六月十八日 壬子 土曜

終日揮毫する。

六月十九日 癸丑 日曜 折々細雨。

朝より法帖書上て、午下四時十分之汽車にて横浜二行。供ハ山形菊を連而、横着。守川安
迎ニ出て、直二三の谷に行。原氏にては皆々出迎ひにて、先々無怠を祝ふ。この日より六
日間之滞留のつもり也。

*無怠(無恙)

(六月二十日〜廿三日、記載ナシ)

六月廿四日 戊午 金曜 晴。

三の溪、午飯済て、皆々え誥別して、午下一時三十分之汽車にて帰宅する。

六月廿五日 己未 土曜

朝起。課業例の如し。入塾、高橋豊子。

弘方摘要 土産として次え二円。

六月廿六日 庚申 日曜 雨。

午下、余をはしめ愛治郎、桃子、節子、五軒町に会す。仕舞之会日也。済て帰。田村増子
百ヶ日二付、前日備物する。

弘方摘要 五軒町え壺円五十銭。

*備物(供物)

六月廿七日 辛酉 月曜 細雨。
朝起。課業例の如し。

六月廿八日 壬戌 火曜 晴。

朝起。課業例の如し。来客、原安子、夕飯を喫して帰。

政党内閣成、大隈総理大臣。

*大隈総理大臣(大隈総理大臣)

六月廿九日 癸亥 水曜 晴。八十六度。

朝起。課業例の如し。午下、閑院宮に詣し、御教授申上て、帰途五軒町に行て帰。

六月三十日 甲子 木曜 晴。

朝起。課業例の如し。夕景、生徒連て太田神社ニ参詣して帰。

受方摘要 閑院宮、三十円。園祥子、三円。藪兼子、三円。九条恵、千疋。

(六月会計、記載ナシ)

(七月)

七月一日 乙丑 金曜 晴。八十八度。

朝起。課業例の如し。入門、石川光明女。

田村盛子より小紋織一反。三村松子、あかし一反。

*あかし(明石)

七月二日 丙寅 土曜 晴、午下細雨直ニ上、夜月清し。九十五度、風なし、むし熱く難堪。

朝起。課業例の如し。

七月三日 丁卯 日曜 晴。八十二度、風あり、殊ニ涼し。

朝起。揮毫する。

七月四日 戊辰 月曜

授業半日にして、朝七時始り十一時ニ畢ル。

七月五日 己巳 火曜 晴。八十八度。

課業例の如し。来客、上杉茂憲伯、入学を頼まる。

払方摘要 会計え借す、金百円也。

*借す(貸す)

七月六日 庚午 水曜 陰、細雨不定。八十二度。

朝起。課業例の如し。来客、浦太郎、四三子、上杉の姫。小林茂子、結婚の祝に紹織帯地、鶏卵一箱を贈る。訃音、神田孝平昨五日死去す。依金千疋を贈ル。佐の常民え写真を贈ル。

受方摘要 吉田鈺子、三円。生源寺いさを、三円。平田三枝、三円。大東豊子、三円。樹下定江、三円。

*佐の常民(佐野常民)

七月七日 辛未 木曜 終日の雨。この日を以て梅雨の晴といふ。

課業例の如し。母の忌日二付、重威より饅頭二重到来す。

田村氏より、白縮緬一反、紹羽織地、すきや一反、桐生一反、ちゅみ二反。

*すきや(透綾) *ちゅみ(縮)

七月八日 壬申 金曜 晴。八十八度。

朝七時より、戸田家ニ教授して、神田氏に弔詞伸て帰。

戸田氏より、あかし一反。

受方摘要 戸田氏より十円。若松内侍、五百疋

*あかし(明石)

七月九日 癸酉 土曜 晴。八十八度。

課業例の如し。午下終日揮毫する。

七月十日 甲戌 日曜 晴。八十七度。

終日揮毫する。また中元の贈り物する。来客、牛込幸子その母と也、上芝岩太。

七月十一日 乙亥 月曜 晴。八十九度。

課業例の如し。来客、佐野御隠居。例の星の岡会日なから、暑さに断る。

山内節子、在町一反。

受方摘要 斎藤両人、廿五円。今城氏、千疋。

七月十二日 丙子 火曜 晴。

課業例の如し。

原氏より紋博多夏帯箱入、友仙縮緬長襦半地、子供え緋紹帯地二箱、桃子、節子織物丸帯二本、愛治郎え小紋紹一反、泰え白縮緬へコ帯、次え十三反。毛利万子より、すきや一反。井深氏より、在町二反。

受方摘要 松平鱗子、千疋。毛利万子、三円。安田輝子、三円。上野とせ、三円。関根照子、五百疋。

*友仙縮緬(友禅縮緬) *長襦半地(長襦袢地) *すきや(透綾)

七月十三日 丁丑 水曜 昨夜豪雨、朝より止。
課業例の如し。

受方摘要 片平定、治、五円。松平岳子、三円。渡辺庸、五円。

七月十四日 戊寅 木曜 晴。清涼。
課業例の如し。

受方摘要 左右田静、五円。徳川氏、廿円。
青山そまより在町二反。

七月十五日 己卯 金曜 晴。
課業例の如し。来客、山県孝子、松野利根子、森竹静子、五軒町夫婦、五島子爵、石山すま子。政子、里家より帰宅する。基遂子、此度就官二付、此日帰宅する。
受方摘要 岩倉氏、千疋。松平妙子、三円。松野利根、二円。五軒町、壹円五十銭。中村敬子、二円。

七月十六日 庚辰 土曜
受方摘要 森肇、五円。

七月十七日 辛巳 日曜
閑院宮より白紹一反。

(七月十八日、廿二日、記載ナシ)

七月廿三日 丁亥 土曜 晴。
朝起。課業例の如し。此日を以て夏期休業す。塾生続々帰省す。
長谷川静江より紅梅織一反。
受方摘要 戸田銚子、一円。森千代子、三円。

(七月廿四日、記載ナシ)

七月廿五日 己丑 月曜 晴。

来客、千家尊福夫人及国子此度毛利氏ニ嫁し候ニ付、御いとま乞に来ル、今津久子。

酒井恵子、白すきや一反。

受方摘要 浴衣券、三円。

*いとま(暇) *白すきや(白透綾)

七月廿六日 庚寅 火曜 晴。

朝六時より、余、桃子、節子、栄子と、五軒町に行。仕舞会日(ニ)て十一時全畢而帰。

千家国子、此度毛利元仲と結婚之約齊ひ、愈廿八日其式ニ付、祝として松魚一折、白縮緬一反を贈ル。

受方摘要 税所敦子、一円。

七月廿七日 辛卯 水曜 晴、夜月清し。八十八度。

朝起。雑事のみ。来客、菊池氏。夜半、本郷五丁目火あり。

受方摘要 藪兼子、七百疋。吉田鉦子、七百疋。

七月廿八日 壬辰 木曜 晴。八十九度。

朝起。書至、熊本堀部鶴子六月一日男子出産ス。京都御寺御所より御庭のなす、唐からし、きうり、李、そら豆着。

弘方摘要 床台、\三円五十銭。

*なす(茄子) *きうり(胡瓜)

七月廿九日 癸巳 金曜 晴。九十度。

朝起。雑事のみ。書を寄す、三田尻毛利美佐子さまえ、三条治子様、谷口瑩堂。夕景、五軒町二行、九時帰る。

小林茂子より、縞絹一反。

七月三十日 甲午 土曜 晴。九十上に登ル。

朝起。揮毫す。書を寄す、小林茂子。

*九十(九十度)

(七月三十一日、記載ナシ)

(七月会計、記載ナシ)

(八月)

八月一日 丙申 月曜 晴。夜、大雨。

朝四時起。新橋六時四十分汽車にて横浜三の溪原氏二行。余、桃子、栄子、愛治郎三人連也。愛治郎ハ横浜迄にて帰る。大旱の雲霓を望か如し。汽車行中ニ、田畑みなひどわれたるの暑さも。横浜ニハ待受たる車而乗て、三の溪に着す。山水のすゝしき風に心快然たり。此夜始て大雨、実ニ膏雨にて、百性たちのよろこひ限りなし。

*而(三) *百性(百姓)

八月二日 丁酉 火曜

東京より北村来、栄子共に帰京す。

(八月三日〜六日、記載ナシ)

八月七日 壬寅 日曜 雨。

滞在中一周間目にて雨、頗快。

*一周間(一週間)

(八月八日〜廿四日、記載ナシ)

八月廿五日 庚申 木曜

本日帰京のはつ、大雨にて見合す。

*はつ(筈)

八月廿六日 辛酉 金曜

朝より帰京の準備して、午后一時二三の谷出立す。余、及原安子、青木幾恵、節子、森川送り来ル。二時四十分の汽車にて帰る。神田辺より雨。無事帰着す。この前刻、泰及朋友、鶴子、四人、房州より無事帰着す。

受方摘要 新樹典侍、五百疋。紅梅典侍、千疋。花松典侍、七百疋。
弘方摘要 次え土産、二円。

八月廿七日 壬戌 土曜 晴。八十八度。

原安子、幾恵、滞在。

八月廿八日 癸亥 日曜 晴。八十六度。
朝、原氏より電話にて、安子帰宅を促す。十時四十分の汽車にて帰らる。

八月廿九日 甲子 月曜 晴、夕細雨さつとしてやむ。八十五度。
朝起。書を寄す、藤袴内侍さま、及紅梅典侍、新樹典侍、花松典侍。

八月三十日 乙丑 火曜 晴。八十五度。
泰居間建築二付、上棟す。

八月三十一日 丙寅 水曜 晴。
朝起。五軒町を訪て、正午帰る。

(八月会計、記載ナシ)

(九月)

九月一日 丁卯 木曜 二百十日。朝より陰りて、午下細雨、風を交る。雷も一、二度鳴る。夕景ニ至りて雨も晴れ、先々無難也。

朝起。墓参して帰ル。来客、石山晨子、五軒町治子。

九月二日 戊辰 金曜 晴。八十八度。

姪重子の祭典す。帰塾、内藤済子。

弘方摘要 **むそふ羽織**色上、津田や。

*むそふ羽織(無双羽織)

九月三日 己巳 土曜 雨。八十六度。

朝より細雨、午後ニ至りて豪雨となる。夕景雨晴、天赤く**やく**が如し。帰塾、赤城千賀乃。

*やく(焼く)

九月四日 庚午 日曜 晴。八十六度。夜中もむしあつくて堪らぬを、一雨さつとふり来りて、始て涼を覚えぬ。

帰塾、竹山悦子、山崎修子、定治。入塾、加茂静江。帰塾、犬養操、山村豊、有吉静。

九月五日 辛未 月曜 晴。

朝起。続々塾生帰塾す。来客、大坂中島富、同千久の兩人来り、滞在す。

中山安子より甘露**柚ねり**到着す。

受方摘要 塩原氏、三円。

弘方摘要 黒縮緬羽織色あげ、金富町伊勢や。

*柚ねり(柚煉り)

九月六日 壬申 火曜

朝起。教授始をなす。通学生も続々来ル。朝より晴雨不定、夜に入て暴風雨となり、一時より四時至るも寐に不就。樹木ハ四、五本たをれ、藤棚落る。夜明て快晴**拭か如し**。

*拭か如し(拭が如し)

九月七日 癸酉 水曜 晴。八十七度。

課業例の如し。泰居間新築、全落成す。

九月八日 甲戌 木曜 晴。

課業例の如し。午下、閑院宮に詣し、御息所に拝謁す。暫時にして小松宮に詣す。御両所共橋場にて御不在、暫時にして帰る。大坂九条の客人、日光、善光寺見物に出立す。

九月九日 乙亥 金曜 晴。

課業例の如し。来客、井上薫伯使渡辺菖介、小池きよ。

弘方摘要 小池氏え謝礼、金拾五円、白縮緬一反。

九月十日 丙子 土曜 晴。

課業例の如し。書至、長州豊浦郡清末村毛利久爾子、豊後大分中山安子。早起。氷川神社に参詣す。

受方摘要 加藤常理、一円。

弘方摘要 津田や、**緋板しめ**七尺代金、弍円六十錢。＼羽織裏**ゆのし**、十二日すむ。氷川神社に五十錢。

*緋板しめ(緋板締) *ゆのし(湯のし)

九月十一日 丁丑 日曜 晴。八十六度。

来客、田中又、其娘入塾願出ル。

九月十二日 戊寅 月曜 陰。八十五度。

朝起。**近方**散歩して帰る。入塾、田中春子。入門、浅田光子。

受方摘要 三淵氏より二円。

*近方(近傍)

九月十三日 己卯 火曜 細雨。七十五度、涼始て覚ゆ。

閑院宮殿下、此度墺国即位五十年祝典御参列の為、明十四日御出發之処、同国皇后陛下ハ本月十日兇漢の為に刺し殺されたり。依而此度の御發立御見あ(は)せのよし仰聞らる。課業例の如し。書を寄す、京都姉小路、静浦角田氏、原安子。余、田村氏を訪て帰る。受方摘要 木村幸子、一円。

九月十四日 庚辰 水曜 朝より細雨、終日降通し。七十度。

書至、斎藤仁子。課業例の如し。大坂の客人富、千久、善光寺より帰り来る。暴風雨後、薄氷峠の隧道破崩して困難のよし也。

*薄氷峠(碓氷峠)

九月十五日 辛巳 木曜 細雨、午後晴。七十五度。

朝起。墓参して帰る。課業例の如し。書至、池田幾子。返書、同。大坂の客人、今朝出立す。

九月十六日 壬午 金曜 陰晴不定。

朝起。近方散歩して帰る。来客、中島竹子、其母と。

*近方(近傍)

九月十七日 癸未 土曜 晴。

朝起。課業例の如し。退塾、中島安寿。来客、重たけ、広田武子。

中島安寿、ちよみの浴衣地一反。

*重たけ(重威) *ちよみ(縮)

九月十八日 甲申 日曜 晴。

朝起。五軒町訪て帰。来客、佐野隠居、斎藤常子帰塾、上芝岩太、山県孝子。入塾、矢野麟子。

受方摘要 斎藤常子、三円。

斎藤常子より湯染一反。

九月十九日 乙酉 月曜 晴。

朝起。牛天神、大田神社に参詣して帰。入門、都丸亀子。入塾、津久居米、茂木秋、中島竹。

*大田神社(太田神社)

九月二十日 丙戌 火曜 晴。
朝起。散歩して帰る。課業例の如し。退塾、江副静子、通学願出る。
受方摘要 江副静子、五円。

九月廿一日 丁亥 水曜 晴。
課業例の如し。午下、岩倉家ニ教授して帰る。訃音、西川富昨朝死去。書至、唯専寺信江。

九月廿二日 戊子 木曜 晴。七十三度。
朝起。墓参して帰る。退校、森千代子。来客、井上市兵衛、一宿ス。
森氏より、紬縞一反。

九月廿三日 己丑 金曜 細雨。
秋季皇霊祭ニ付、祖先祭典執行ス。重たけも来ル。塾生一同え酢もしにて呼ふ。玉枝も来
る。市兵衛、午後帰浜す。

*重たけ(重威)

九月廿四日 庚寅 土曜 雨。
休業ス。余、横浜原氏を訪ふつもり処、脳あしくて断ル。
*あしく(悪しく)

九月廿五日 辛卯 日曜 終日、夜ニかけて雨降つゝく。
朝起。揮毫す。

九月廿六日 壬辰 月曜 先々晴。
課業例の如し。来客、守川安、原氏の使ニ来ル。

(九月廿七日、記載ナシ)

九月廿八日 甲午 水曜 晴。
課業例の如し。午下、岩倉家ニ教授して帰。

(九月廿九日、三十日、記載ナシ)

(九月會計、記載ナシ)

(十月)

十月一日 丁酉 土曜 先々陰、日暮細雨。
課業例の如し。午下、五軒町之祖先祭りニ付、余、愛治郎、桃、節も行って拝ス。仕舞之会もありて賑々敷、日暮帰宅する。入塾、久城初子。
田村氏よりふらむねる一反。
*ふらむねる(フラムネル)

十月二日 戊戌 日曜 陰雨不定。
入門通学、南部貞子。同、館敏。同、田村花井。

十月三日 己亥 月曜
入門通学、天野たけ。同、野々村静。蒲生氏より文集壹部到着。

十月四日 丙寅 火曜
入門通学、山本まき。同、広田たけ。五軒町重威、京都ニ出立す。午後六時発の汽車也。余等、五軒町迄行。小包、手本二冊、尾州徳川氏ニ贈る。書至、安田千代、庭野千代太。絹本画、信州降旗氏ニ小包郵便ニて贈ル。
受方摘要 斎藤松野、五円。

十月五日 辛丑 水曜 陰、日暮より雨。六十五度。
朝起。散歩して帰る。新潟県中魚沼郡新坐村庭野千代太氏孝道に感して、絹本豎物鐘馗之画を贈る。戸田氏、岩倉氏ニ教授して帰る。

*豎物鐘馗(豎物鍾馗)

十月六日 壬寅 木曜 朝雨。
落合氏、教員を解く。依而白七子一反、金五円を贈る。

(十月七日、記載ナシ)

十月八日 甲辰 土曜 朝晴天、午下細雨時々する。
午下一時より、余及桃子と同道にて、二本榎毛利邸之園遊会ニ会す。此会也、小早川御夫婦、毛利五郎御夫婦、大村六郎御夫婦之御披露之為也。余興一番目より雨降出し、御坐敷にて立食、四時過ニ散会す。毎日新聞に、花蹊女史越後孝子に画を贈るの記事謁載アリ、孝子に贈ル。来客、今度落合氏之替りに木村春太郎氏ニ囑托す。

*謁載(掲載)

十月九日 乙巳 日曜 雨。

終日揮毫す。来客、森永辰江。寄書、横浜原氏、島田信子。

十月十日 丙午 月曜 晴。

課業例の如し。

(十月十一日、記載ナシ)

十月十二日 戊申 水曜

訃音、山田時章昨十一日死去の報アリ。山田氏香料金千疋を贈ル。

十月十三日 己酉 木曜 晴。

午下、余、桃子と同道ニテ、安田氏之還暦之祝ニ招かれ、半日の歡を尽して、夜八時過帰。

十月十四日 庚戌 金曜 晴。

午下、余、三井徳右衛門氏能楽ニ行、夜九時過帰る。

(十月十五日、記載ナシ)

十月十六日 壬子 日曜 晴。

姉小路ニテ例年之通、大職官鎌足公祭典ニ付、参詣して、六時頃帰る。

*大職官(大織冠)

十月十七日 癸丑 月曜 神嘗祭。晴。

来客、青木幾恵、其姉と同道ニテ来ル。午下徳川氏ニ行、暫時富子様と久々にて閑談して帰。

青木幾恵より高貴織一反。

十月十八日 甲寅 火曜 晴。

京都大聖寺より松茸、御所柿着。

十月十九日 乙卯 水曜 晴。

午下、戸田氏、岩倉氏ニ教授して、帰途角田氏ニ斌子の病を訪ふ。枕辺に閑話して帰。来客、斎藤善子。重威、京都ニ行。夕六時之汽車也。書至、斎藤仁子。受方摘要 斎藤善子、五円。

十月二十日 丙辰 木曜 終日雨。
来客、(以下、記述ナシ)

十月廿一日 丁巳 金曜 晴。
山田時章葬式ニ付、三浦氏代参す。来客、京極艶子。

十月廿二日 戊午 土曜 陰。
愛治郎、横浜原氏ニ行、夜九時帰。
弘方摘要 吹田勘十郎、合力、金五円。

十月廿三日 己未 日曜 晴。
朝起。五軒町を訪ふて帰。終日揮毫する。

十月廿四日 庚申 月曜
書及小包たん物を寄す、京都御寺御所。
*たん物(反物)

十月廿五日 辛酉 火曜
終日雨、夜ニ入て大雨となる。

十月廿六日 壬戌 水曜 晴。
午前三時前、近火にて起し来り、戸明て見れハ近きも近き、隣家の様にて、生徒も一同起出、先昼着と着替を命す。実ニ火勢強く驚入たるに、俄に北西の風と替り、安心いたし候。其内ポンフも参りて、匆チ沈火に及たるハ、先々安堵之至り也。跡にて聞けハ、この火出しの家ハ酒屋宮崎氏にて、一家八人の者尽焼死いたし候。一大疑問也。濃州青木氏より松茸一籠着。姉小路伯、本日京都出發のよし也。
*戸明て(戸開けて) *ポンフ(ポンプ) *匆チ(忽チ) *沈火(鎮火)

十月廿七日 癸亥 木曜 晴。
朝より火事見舞の客続々来、又見舞状同様来る。

十月廿八日 甲子 金曜 朝雨、已而晴。
(コノ日、記事ナシ)

(十月廿九日、記載ナシ)

十月三十日 丙寅 日曜 晴。
朝、觀世來。

(十月三十一日、記載ナシ)

(十月會計、記載ナシ)

(十一月)

(十一月一日、記載ナシ)

十一月二日 己巳 水曜
入塾、三淵菊子。

十一月三日 庚午 木曜 天長節。終日雨不霽。
終日揮毫す。

十一月四日 辛未 金曜 晴。
靖国神社ニテ、台湾戦死病死者之特別招魂祭執行、本日ヨリ五日間也。学校休業。姉小路伯、本日午下一時四十分之汽車ニテ平塚へ転地療養せらる。余等、新橋迄、愛治郎、重威ハ平塚迄御送り申上る。余ハ是より小松宮御殿へ参る。両殿下ニ拝謁、御息所御案内ニテ御新築尽ク拝見仰付らる。暫時閑談して去ル。閑院宮御息所、去ル二日御女王御分娩ニ付、恐悦申上る。姫宮ニも御拝謁申上ル。
宮原氏より奉書絹一反。

十一月五日 壬申 土曜 晴。
朝雨、已而止、天晴朗。午下、豊島岡ニテ北白川宮御三年祭御執行ニ付、参拝す。四時帰る。

十一月六日 癸酉 日曜 晴。
寄書、宮原氏、福島安田氏。入塾、中原鈴子。安田善治郎氏へ周甲之祝ニ絹本老松之図を贈る。

払方摘要 篆刻師鉄耕に印刻料、金四円。

十一月七日 甲戌 月曜
入門、牧田すみ。入塾、柴田春子。

十一月八日 乙亥 火曜
書至、大坂辻氏、鯛味噌着。

(十一月九日、記載ナシ)

十一月十日 丁丑 木曜 晴。
午下早々戸田氏ニ教授して、岩倉氏ニ教授して帰る。
水曜日の間違ひ也。

(十一月十一日、記載ナシ)

十一月十二日 己卯 土曜 晴。
原氏七五三之祝ニ付、鶏卵一箱、紋羽二重一反、緋紋羽二重しぼり襦半地、博多帯地を祝ふ。午下早々五軒町へ行、仕舞会。夕景帰る。
*襦半地(襦袢地)

十一月十三日 庚辰 日曜 先々晴、又雨、已而晴。

天皇陛下大演習ニ付、大坂へ行幸あらせられる。来客、岡崎忠子、観世。
紋織一反、上野とせ子。

受方摘要 原氏三人より三十円、鯉節、料理。

十一月十四日 辛巳 月曜 晴陰不定。

来客、坂東錫子、其子準四郎拉して来る、一泊。

十一月十五日 壬午 火曜 晴朗。

午下、墓参して帰る。坂東錫子、其子とも昼前帰る。理科学講義始る。

十一月十六日 癸未 水曜 晴。

午下、戸田氏、岩倉氏に教授して、芝明照院え、万里小路八重子の墓に参る。已而帰る。
受方摘要 佐久間氏、伊藤氏、金三円。

*明照院(妙定院)

(十一月十七日、記載ナシ)

十一月十八日 乙酉 金曜 晴。

終日之雨にて、午下五軒町に、雨中ながら紅葉見二行て帰る。

*晴(ママ)

十一月十九日 丙戌 土曜 晴。

朝起。庭の紅葉を観んとて、昨夜よりの豪雨にて路あしく、すへりこけたり。腰部をうちて、かく別のいたみハなけれど、十時頃迄脳をひやして臥。夜、五軒町来る。来客、加茂水穂、石山すま子。

*路あしく(路悪しく) *すへり(滑り)

十一月二十日 丁亥 日曜 晴雨不定。

朝七時二十分汽車にて、桃子、菊枝の二人、平塚姉小路を見舞ふ。

十一月廿一日 戊子 月曜 晴、後に陰。

午下、余、愛治郎、政子と散歩して、滝の川に紅葉を見る。もみちハ散過て、おくれたる三の一のみ。道は泥々としてあしき事極りなし。なれと客ハ夥しく、随分雑沓也。王子の汽車に乗て帰る。また散歩也。書至、毛利万子。山口三田尻にて十八日正午十二時、美佐子様女子御分婉。

十一月廿二日 己丑 火曜 陰、夜二入て雨。

入塾、三木梅子。

牛込金三より、繡珍羽織裏。

十一月廿三日 庚寅 水曜 新嘗祭。四十四度。

朝より初雪降出し、続て雨。書至、牛込幸子。

(十一月廿四日、記載ナシ)

十一月廿五日 壬辰 金曜 晴。

来客、女教師松本、八木。万里小路八重子一周忌二付、香料二円を備える。来客、斎藤善子、松野。安田善次郎氏より銅製犬の香炉箱入、松魚、鶴の子餅を贈らる。

*備える(供える)

十一月廿六日 癸巳 土曜 朝より雨模様。陰雨不定。夜二入豪雨、又風。

(コノ日、記事ナシ)

十一月廿七日 甲午 日曜 晴。

朝より揮毫する。書を寄す、山口県三田尻毛利さまえ御分婉の祝詞。高輪毛利様え。訃音、鈴木重嶺昨廿六日死去。訃音、角田氏より使来、斌子廿五日死去。余、早速角田氏え行、悔を申。両親之なけき一方ならぬ、共に涙にくれ候。夫より五軒町を訪て帰。

弘方摘要 五軒町え十月、十一月分、三円。

*なけき(嘆き)

十一月廿八日 乙未 月曜 晴。

今朝六時、斌子之葬送ニ付、愛治郎会葬す。角田氏え香料弍円、鈴木氏え同五百疋。山形友治郎、児女宮参りニ付、むし物到来。

*むし物(蒸し物)

(十一月廿九日、記載ナシ)

十一月三十日 丁酉 水曜 陰雨不定。

午下、戸田氏ニ教授して、田村氏を訪ふ。夫ヨリ岩倉氏ニ教授して帰。安田輝子、廿七日男子**分娩**す。

*分娩(分娩)

(十一月会計、記載ナシ)

(十二月)

十二月一日 戊戌 木曜 陰晴不定。

昨三十日除隊式ニ付、万里小路直房除隊ニ付、松魚一箱を祝ふ。午下、墓参する。

十二月二日 己亥 金曜 雨。

大坂辻氏え画帖小包ニテ送る。

十二月三日 庚子 土曜 雨。

来客、小早川式子、大村梅子の両夫人御入にて、夕景御帰邸ニ相成候。

受方摘要 大村氏より三円。

十二月四日 辛丑 日曜 雨始而晴、暖気也。

正午十二時より、田村長子、利久仁と同道ニテ三井謡和会ニ行、能楽を観る。六時済て帰。田村氏にて晚餐を馳走せらる。謡仕舞等も見て帰。

*三井謡和会(三井養和会)

十二月五日 壬寅 月曜 晴。

試筆の稽古を初める。

十二月六日 癸卯 火曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十二月七日 甲辰 水曜 晴。

午前一時、不計身体動揺して不止、女中を起し、井深氏を呼て診証を乞ふ。脳の反射ケレンのよし。暫時にして治す。教授を休む。外出教授も断る。姉小路、耆人にて平塚より帰京せらる。画の三年生十人え号名をさづくる。書至、斎藤仁子。

弘方摘要 井深氏え一円。

*反射ケレン(反射痙攣) *さづくる(授くる)

十二月八日 乙巳 木曜 晴。

来客、佐野常民嬢、玉枝来。

十二月九日 丙午 金曜 陰、夜雨。

紀州小畑より、みかん一箱。

十二月十日 丁未 土曜 晴。

生徒試筆揮毫済。来客、斎藤善子、松野、橋本吉兵衛。

田村成子より紋御召一反。

受方摘要 松平鱗子、五円。斎藤松の、同常子、廿五円。

十二月十一日 戊申 日曜 晴。

午下、五軒町仕舞納会ニ付、行。二時後より徳川様より招きに応して行。富子様輿入、来ル廿八日御治定ニ付、祝宴ニ招かる。夜七時帰。白紋壁一反箱入、鴨二羽を祝す。安田氏産衣、友仙縮緬箱入、松魚。

徳川富子より一楽織一反。

受方摘要 徳川氏、廿円。

*友仙縮緬(友禪縮緬)

十二月十二日 己酉 月曜 陰、夜二入大雨。
生徒、勅題田家煙、稽古にかゝる。朝起。氷川田甫散歩する。
受方摘要 軍事公債利子、七円五十銭。

十二月十三日 庚戌 火曜 終日豪雨。
(コノ日、記事ナシ)

十二月十四日 辛亥 水曜 晴。
午下、岩倉氏に教授して帰。

十二月十五日 壬子 木曜 晴。
生徒、勅題田家煙、書上る。来客、上杉茂憲伯、横浜渡辺玉子、大谷増子。観世兩人え一
楽織一反、糸織一反を贈る。
渡辺玉子より絹裏地一反。
受方摘要 大谷増子、千疋。斯波滋子、五円。
払方摘要 観世兩人え十円。

十二月十六日 癸丑 金曜 晴。四十三度、始而氷を結ぶ。
生徒に画の試筆稽古にかゝる。来客、佐藤姑子斎藤千賀子縁段に付、願来る。井深氏え御召縮
緬一反箱入、田村盛子(え)唐紋緞子帯地を贈る。書を寄す、斎藤善子え。
上のとせ子より繻珍帯地。

受方摘要 三条夏子、五円。酒卷千世、同。江副米、同。千家信、同。長の辰、同。上の
とせ、同。加茂静江、同。
*縁段(縁談) *上のとせ子(上野とせ子) *長の辰(長野辰) *上のとせ(上野
とせ)

十二月十七日 甲寅 土曜 殊に晴朗、無風。暖気よほとこの違ひ也。
課業畢而、午後一時四十分汽車にて、余、桃子兩人、平塚二行。停車場に姉小路迎ひに来
られ、同道にて行。八幡山旅舎ニ着、一泊す。

受方摘要 岩倉八千子、十円。同、梭子、八円。西村喜三郎、老円。戸田銈子、老円五十
(銭)。安田暉子、五円。

十二月十八日 乙卯 日曜 晴朗。
朝起。日の出の奇麗、言語に尽されぬ。余、老人にて海岸ニ出て、四方之風色を写しぬ。

不二の雪も真白にて、金屏風に極彩色の図也。松も松とて見渡す極み松のみ也。帰りて朝飯たうへて、姉伯と共に馬入のほとりえ散歩して、この絶景を詠め、一時過帰舎。昼飯たうへて塩湯に入、身仕度して三時三十分汽車にて横浜へ行、原善三郎氏の病を訪ふ。少しよき方ニ向はれたるよしを聞く。夕飯たうへて七時の汽車にて帰宅す。
受方摘要 三条奥より五円。戸田兩人、十円。平田三枝、三円。吉田鈺子、三円。樹下定江、三円。

*たうへて(食べて) *たうへて(食べて) *たうへて(食べて)

十二月十九日 丙辰 月曜 晴。

画の試筆かき上る。来客、加茂玉江。

受方摘要 横川氏、二円。

十二月二十日 丁巳 火曜 晴。

寄書、佐藤姑子え。

毛利万子、糸織一反。

受方摘要 毛利万子、三円。園祥子、三円。薺兼子、三円。片平定子、五円。今城友子、千疋。

十二月廿一日 戊午 水曜

受方摘要 生源寺いさを、三円。大東豊子、三円。松平妙子、三円。(氏名欠)、三円。

十二月廿二日 己未 木曜 晴。

午下早々閑院宮様、三条家、岩倉家え歳末ニ参り、日暮帰りぬ。

閑院宮より紋羽二重一反。岩倉家より紋羽二重一反。

十二月廿三日 庚申 金曜 晴。

午下、戸田氏ニ教授して帰りぬ。生徒一同此日を以て、教授納めをなす。

戸田氏より御召縮緬一反。

十二月廿四日 辛酉 土曜 晴。三十度。

塾生続々帰省す。画を贈ル、赤倉氏絹地二枚。絹本一葉、伯耆国八幡村東八幡木下謙治郎。絹本一葉、名古屋や市不二見町深谷半十郎、絹本二葉、福山町字西町横山廉次郎、鷺箋小切地、陸前国柴田郡村田町大沼新四郎。

*名古屋や市(名古屋市) *鷺箋(画牋)

十二月廿五日 壬戌 日曜

受方摘要 上杉氏、三円。同、老円五十銭。中村敬子、二円。三条家、五円。九条家、千疋。

十二月廿六日 癸亥 月曜
受方摘要 松平鱗子、千疋。

十二月廿七日 甲子 火曜 終日雨降通す。

受方摘要 茂木栄子、五円。

払方摘要 呉服屋米、反物三反、二円九十銭。

十二月廿八日 乙丑 水曜 晴。

絹本聖物若松之図揮毫畢。来客、佐野隠居。

受方摘要 松平岳子、三円。

十二月廿九日 丙寅 木曜 陰晴。四十二度。

午下早々福引景物買物ニ行て帰。節子、朝十一時愈帰国す。

十二月三十日 丁卯 金曜 晴。

来客、石山基遂来。夜十一時後地震、本郷火。

受方摘要 五軒町、老円五十銭。

払方摘要 呉服や米、反物三反、二円廿銭。

十二月卅一日 戊辰 土曜 晴。

午前一時頃より正子俄然病起、早々井深氏来る。胃腸之反動にて、熱四十度一分二上ル。来客、石山須磨子。先々無事、歳末之祝儀も無滞すみ、万々歳。家内安全、めて度年を送る。

受方摘要 田中芳子、五円。岩佐亀、二円。酒井時藤、老円廿五銭。徳川氏、五千疋。

*祝儀(祝儀)

(十二月会計、記載ナシ)

(明治三十一年会計)

觀世、十月一度、同、十一月十三日、十二月廿六日、同廿九日。

廉、(十一月)十八日、同、廿六日、同、三十日、同、十二月三日、同、八日、同、廿七日、同、三十日。